

いのちを脅かすウクライナへのロシア軍の進攻に断固抗議し、侵略の中止を求める

2022年3月1日

東京民主医療機関連合会

会長 根岸京田

私たちは、医療や介護にたずさわる者として、いのちと健康を守り、一切の戦争政策に反対し、核兵器を無くす立場から、ロシア軍の侵攻に強く抗議します。

2月24日にロシア軍はウクライナに侵攻しました。プーチン大統領はウクライナ東部の地域の独立を一方向的に承認し、首都キエフをめざし各地で軍事行動を行っています。この行為はウクライナの主権、政治的独立、国際的に認められた国境内の領土保全を脅かすもので、国連憲章にも国際法にも反する軍事力行使による同意なき他国の領土への侵攻であり、侵略行為そのものです。

プーチン大統領は、「ロシアは最強の核保有国の一つ」であり「ロシアへの直接攻撃は、敗北と壊滅的な結果をもたらすことに間違いない」と発言しました。これは、核兵器使用による国際社会への威嚇です。このプーチン大統領の発言は、核兵器を違法化した核兵器禁止条約に反します。万が一にも核兵器が使用されれば、地球と人類全体に壊滅的影響を与えることは明白です。唯一の戦争被爆国の市民として到底容認できるものではありません。

今、ウクライナでは、ロシアの軍事進攻により多くの市民が犠牲となり、女性や子どもたちを含む全ての人びとが命を奪われる危機にさらされています。このロシア軍の無法な軍事行動に対して、ロシア連邦の53都市も含め、世界各国の市民が反戦行動に立ち上がり、「侵略を止め、国連憲章を守れ」の声をあげています。

私たちはこのような世界の市民の行動と連帯し、ロシア軍によるウクライナへの軍事侵攻に断固抗議し、即時、侵略を中止することを求めます。